

夏枯れしない 耐暑性牧草 暖地の夏期に好適

“ローズグラス”について

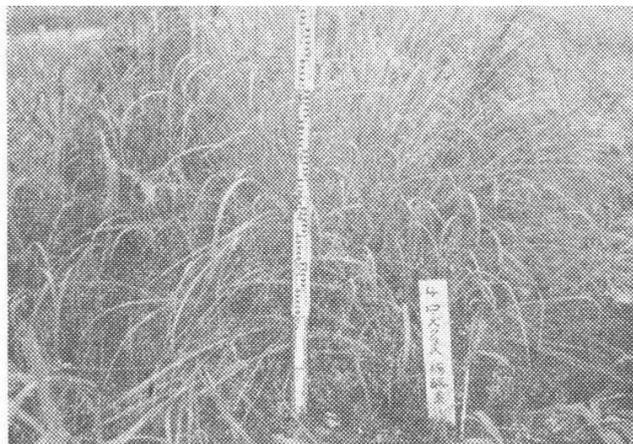
岡山県酪農試験場 金田 清

はじめに

いわゆる北方型牧草（オーチャード、ラジノクローバー、レッドクローバー等）は旱害、暑害に弱く暖地においては夏枯れ現象が起って牧草地の生産量の低下をきたし、さらには2～3年で更新しなくてはならない状態となる。この夏枯れ対策の一つとして高温、早魘に強い南方型牧草（ローズグラス、バヒアグラス、バミューダグラス等）をとり入れていくことも有効な手段である。

そこで、最近耐暑性牧草として注目されはじめたローズグラスについて予備調査を実施したので、その結果を要約して述べてみたい。

ローズグラス



性状および収量

南アフリカ原産、細茎のきわめて多葉な永年生イネ科草で、イタリー人、セシル・ローズによって牧草としての価値が認められて栽培されるようになり、この名がある。草丈は90～130cmに達し、穂はオヒシバに似ているが分枝だが多く15～18本をもっている。

第1表 嗜好性

	乳牛	子牛	豚	家兎
生草	優	優	優	優
乾草	優	優	—	—

第2-1表 ローズグラスの収量 (Kg/a) (岡酪試)

	1番刈り (7/12)	2番刈り (8/8)	3番刈り (8/31)	4番刈り (10/1)	合計
生草	268.0	147.0	152.0	174.0	741.0
風乾物	40.5	32.1	36.0	35.5	144.1
風乾率	15.1%	21.8	23.7	20.4	—

第3表 分析成績 (岡酪試)

	水分	粗蛋白質	粗脂肪	粗繊維	可溶性 無窒素物	粗灰分
1番刈り	87.7%	2.07	0.46	3.98	4.34	1.45
2番刈り	87.41	2.35	0.52	3.86	4.15	1.51
3番刈り	79.58	2.95	0.63	6.62	8.26	1.70
4番刈り	82.86	2.96	0.50	5.30	6.30	1.82

第2-2表 各地におけるローズグラスの収量 (Kg/a)

	1番刈り	2番刈り	3番刈り	4番刈り	5番刈り	6番刈り	合計
鹿児島農試	251.0 (6月8日)	151.0 (7月3日)	213.0 (7月27日)	193.0 (8月20日)	177.0 (9月14日)	76.0 (10月19日)	1,061.0
栃木農試	268.5 (7月20日)	333.9 (8月21日)	206.6 (9月25日)	45.8 (10月25日)	—	—	854.8
九州農試	292.1 (8月2日)	145.0 (8月30日)	40.3 (9月27日)	—	—	—	477.4
兵庫農試	218.0	425.0	330.0	455.0	—	—	1,428.0

岡山畜産便り 1965.04・05

地上匍匐茎によって広がり、その各節から発根して新しい植物体をつくる。耐寒性が弱いため岡山県では越冬困難である。(兵庫県では5%、徳島県では20%越冬したとの報告がある。)

発芽は一般に不良であるが、これは種子の稔実不良も一因と考えられる。(採取は穂の部分だけ刈り取り、1日乾燥した後、棒で軽くたたけば簡単にとれる。)

初期生育も播種期が早すぎると悪いので、地温の上昇する5月上～中旬頃が適当である。発芽後30～40日頃まで1回除草を行うと以後の生育は順調である。施肥量は10a当り堆肥2000kg、石灰100、基肥窒素20.0、リン酸20.0、カリ15.0 追肥窒素20、カリ15kgで十分である。

播種量は散播で10a当り1～2kgが適当で、播種量を多くしても総収量にはさしたる影響がない。

次に各家畜に対する嗜好性を調査した結果は第1表のとおりである。表のとおり家兎の嗜好性は極めて良好で、特に乾草にした場合、子牛が良く嗜好し、風乾歩留りも優れているので、育成用としてこの利用が適していると思われる。

再生長もきわめて良好で、北方型牧草の生育が停止する6月下旬から9月上旬にかけても良く伸長し、4～6回刈り取ることができる。

南方型牧草の大部分は飼料価値の点で劣るといわれるが、當場での分析成績によるとイタリアンライグラスに劣らない結果を示している。夏のイタリアンライグラスと称されるゆえんであろう。

なお津山地域では越冬しないことが判明したので雑草化のけねんもなく、1年生草本として端境期の青刈飼料、乾草、あるいは回復がすみやかであるので放牧用としても利用可能である。従って夏期牧草地の生産能力の低下を防止する対策としてこれを簡易耕起し追播を行うというような、あるいは北方型牧草類と組合せた栽培技術が今後解決されなければならない課題である。